

【姿の期 10月】

京都市立下京中学校

校長 安居 昌行

「人を喜ばせると自分も喜べる」

10月に入ると、「合唱コンクール」、学校祭「文化の部」、「体育の部」と大きな行事が立て続けに開催されます。毎日学校では、生徒の皆さんが一生懸命に準備している姿を見ることができます。これらの行事は、クラスや学年の「仲間」と、コンサートホールなどこれまでの学びと異なる「空間」で、自分を発見することができる「時間」を共有することができる絶好のチャンスでもあります。自分のもっている力を精一杯発揮し、自分の役割をしっかりと果たしてほしいと思います。また、10月の後半には一年生は伝統文化学習（和食調理と渉成園での茶道体験）、2年生は5日間の「生き方探究チャレンジ（職場）体験」が行われます。そして、3年生は中学校卒業後の進路を話し合う懇談会も行われます。

ところで、このような少し日常の学習と異なる時期だからこそ考えてほしいことが2つあります。それは、20世紀の哲学者であるニーチェという人の次の言葉です。それぞれ『超訳ニーチェの言葉』という本からの引用です。

一つ目は、「徹底的に体験しよう」です。「・・・体験しているときはその事柄に没頭することが肝心だ。途中で自分の体験について冷静に観察するのはよくない。そうでないと、しっかりと全体を体験したことにはならないからだ。」

二つ目は、「人を喜ばせると自分も喜べる」です。「誰かを喜ばせることは、自分をも喜びでいっぱいにする。どんな小さなことでも人を喜ばせることができると、わたしたちの両手も心も喜びでいっぱいになるのだ。」

たとえば、役者になりきる、大道具係として徹底的にこだわった作品を作り上げる。合唱



に、劇や作品作りに没頭してください。体育の部でも全力で走り切ってください。きっと終わった後の「達成感」は何とも言えない心地いいものとなるでしょう。そして、きっと友だちや観客の皆さんと感動やよろこびを分かち合うことができるでしょう。

さまざまな行事に没頭し、その結果として、人を喜ばせ、自分も喜ぶことができるよう全力を尽くしましょう。

〈フジバカマと蝶 草津水生植物園にて〉